

はくぶつかんネット

第16号

～ GINOWAN MUSEUM ～

2003年

8～10月

3ヶ月に1回発行

(次号は11月15日)

▼ ターンム畑の生きもの (大山)

ミナミトビハゼ



▼ 干潟の生きもの (真志喜)

マダライシガニモドキ



発行: 宜野湾市立博物館

〈TEL〉 098-870-9317

〈FAX〉 098-870-9316

〈HP〉 <http://www.city.ginowan.okinawa.jp/home.nsf>

★ 平成15年度 特別展 ★

いの～ん 宜野湾市の自然

私たちの身近にはどんな生きものが生息しているのだろうか？



博物館 イメージキャラクター

天女ちゃんと察度くん

開催期間: 2003年 8月9日(土)～8月31日(日)

午前9時～午後5時まで

火曜日はお休みです

現在の宜野湾市はおびただしい数の車が往来し、建物が建ち並び都市化され、自然環境を見ることが難しくなっています。そんななか、宜野湾市にもわずかながらにその自然環境を保っている場所があります。

その一つが大山のターンム畑です。大山ターンム畑は国道58号線と宜野湾バイパスに挟まれた場所に位置し、58号線から見るとターンム畑の存在には全く気づきませんが、一歩中に入ると、一面青々とした緑豊かなターンム畑が広がっているのです。そこは湧き水によって潤された豊かな湿地が広がり、多種多様な動植物がすんでいます。それらに触れるとまるで別世界に来たような感じになり、都市化された宜野湾市においては、まさに心が癒されるオアシスのようです。

また海岸線では昔の面影は見られなくなり、生きものも少なくなりましたが、トロピカルビーチにある干潟(ナガビシ)には様々な生きものが見られます。その他にも森川公園や比屋良川、普天間川、基地周辺などに森林地域の自然環境を見ることができます。

しかし、このような宜野湾市に残る自然環境は意外と知られていません。

そこで今回は夏休み期間中ということもあり、平成13年度企画展「大山のターンム畑の自然」、平成14年度企画展「宜野湾市の海と人々」から抜粋したものを展示し、「宜野湾市の自然」と題して展示会を行っています。大山のターンム畑を中心に海岸線、森林地域にすむ野鳥の剥製や昆虫の標本、カニやエビの模型、魚などを展示し紹介します。

宜野湾市では自然観察が出来ないとあきらめているあなた、ぜひ展示会を見て宜野湾市の自然を理解し、そして実際に自然観察をしに行ってみてください。そして今度はあなたが新たな宜野湾市の自然を見つけてください。

第12回 (平成15年度)

『市内小・中学生文化財図画作品展』のご案内

開催期間:平成15年9月27日(土)～10月12日(日)

午前9時～午後5時まで / 火曜日・祝祭日はお休みです

※なお、表彰式は9月27日(土) 午後3時から行います

宜野湾市立博物館では、「第12回 宜野湾市の文化財図画作品展」を、9月27日(土)から10月12日(日)まで開催致します。

これは市内の小学校3年～6年生と中学生を対象に、市内にある文化財や伝統芸能、地域での行事・民話・伝統等をテーマにした図画作品を夏休みの自由課題として描いてもらい、そこから宜野湾市にはどんな文化財があるのか、どのような歴史や文化をたどってきたのかを実際に見て・触れて・調べて・知ってもらう事を目的としています。そして集まった作品を各小中学校の図工・美術の先生方に審査してもらい各賞を選出し、展示します。去年の作品は、綱引きをする人々の楽しそうな様子が伝わってくる作品や、喜友名泉にキジムナーが描かれた作品、普天間神宮をダイナミックに描いた作品など個性的な作品がたくさん出品されましたが、今年はどんな作品が出品されるのでしょうか？

気になった方は、ぜひ博物館まで足をお運びください。きっと楽しい作品に、たくさん出会えると思いますよ。

☆第3回 講習会のお知らせ

『身近な野草を食べてみよう』参加者募集！

私たちの周りには、どのような草・花があるでしょう。
今回の講座では、身近にある野生の草・花の中で食べられるものを採集し、実際に昔ながらの方法で料理して、食べるまでの一連の講習を行います。先人の知恵を体験することで伝統的な沖縄の食や文化を考えてみてはいかがでしょうか。

□講 師：野 草一島袋 暁(コザ高等学校校長)

□期 日：2003年 9月13日(土) 午前10時～午後2時

□場 所：博物館・森の川公園

□定 員：30名

□対 象：中学生以上

□参加費：保険料100円と食材料費



★要申し込み

8月23日(土)～9月1日(月) 午後5時まで、電話にて受付けます。

※申込み多数の場合は抽選。市内在住・在勤・在学者が優先となります。ご了承ください。

◎当日雨天の際には、博物館にて講演会となります。

◎詳しい日程や当日用意していただくものについては、参加者に連絡します。

その他の行事報告

～宜野湾市立博物館では、どんな仕事をしているんだろう?～

職場体験リポート

宜野湾中学校の生徒(中学2年生の男子生徒6人)が、7月2日・3日の2日間、当博物館で職場体験学習を行いました。『職場体験』という事で、収蔵品整理や展示案内・展示会終了後の後片づけ・資料採取等、実際行っている博物館業務の一部を体験してもらいハードな日程にも関わらず、皆一生懸命がんばってくれました。

また、7月17日～19日・23日には、浦添高校の生徒(高校2年生の男子生徒5人)のインターンシップ(就業体験学習)を行いました。体験日数が4日間もあったので、中学生が体験した内容以外に、小学校の社会科見学・わらば一体験じゅくの様子等も体験してもらいました。こちらもハードな日程でしたが、てきぱきと作業をこなしてくれました。

普段なかなか体験することが出来ない博物館での仕事を通して、博物館の役割や仕事内容を理解し、更には各々のこれからの事に関し色々な事を感じ・考え、将来の役に立ってくれればと思います。



▲ 中学生の体験の様子



▲ 高校生の体験での一コマ

★リュウキュウメダカ

ほとんどの方が子どもの頃、池や川で遊んだ経験があると思います。川にはアメンボやオタマジャクシ、トンボなどが生息していますが、夢中になって取ったのは、色がきれいなグッピーだと思います。しかしグッピーの原産地が南アメリカで、元々は沖縄の川に生息していなかったことはあまり知られていないかもしれません。グッピーはペットブームによって沖縄に持ち込まれ、1970年代から川でも見られるようになりました。

古くから沖縄の川に生息していたのは何だと思いますか？それはリュウキュウメダカです。メダカは30年前までは市内にも普通に生息していましたが、水質汚染や1919年にマラリアの蚊を撲滅する為に移入されたカダヤシ(蚊絶やし)によって、60年代以降激減し中南部の川や水路ではほとんど姿を消してしまいました。最近、リュウキュウメダカは絶滅危惧種に指定されるほど数が減り、北部の所々に細々と生息しています。リュウキュウメダカに取って代わったカダヤシも、その後入ってきたグッピーによって、その存在が脅かされているそうです。一見すると3種はよく似ているので区別ができず、混同してしまいがちです。見分け方はひれの形の違いです。またメダカは卵を産み、カダヤシやグッピーは稚魚を産むという違いもあります。

これ以上、私たち人間の行為によって、自然の営みを崩さないようペットとして飼育する場合は、最後まで責任を持ち野外に放さないようにしましょう。それは他の動植物についても言えることです...

博物館では、つい最近石川市のビオスの丘で行っている「たかまーにいーや」というメダカの里親制度によって、リュウキュウメダカを飼育することになりました。水槽はロビーに置いてあるので、開館中はいつでもリュウキュウメダカを見ることが出来ます。また、移入種のカダヤシ(正式名タップミノ)やグッピーの水槽もありますので、それぞれの違いを比べることが出来ますよ。



▲ リュウキュウメダカ
「沖縄の川魚」より

平成14年度 慰霊の日特別写真展

■ ‘戦中・戦後の宜野湾市’^{じの〜ん} の報告

沖縄では6月23日の‘慰霊の日’には、各地で様々な催しが行われ、戦争と平和について考える日となっています。当館でも、6月14日(土)～30日(月)まで、収蔵している写真パネルを中心に展示会を行いました。

毎年この時期には、展示会を通して少しでも平和の大切さや世界各地で起こっている紛争、将来の世界平和について考える機会を提供していきたいと思います。



▲ 展示会場の模様

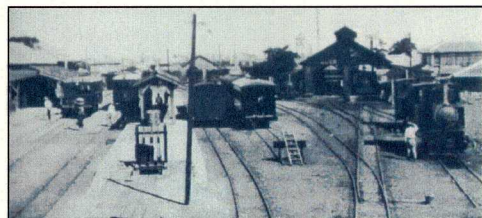
★ 沖縄の鉄道 vol. 1

これまで沖縄は全国で鉄道のない唯一の県でしたが、このたび新しく沖縄都市モノレール(ゆいレール)が8月10日、那覇市に開通しました。ゆいレールは、那覇空港駅から首里駅まで12.9キロ、その間に15の駅が設置されています。沖縄の新しい交通網として今後の期待が高まっています。

さて、戦前まで沖縄にも鉄道が走っていたことを知っていますか。県民に「ケイビン」と呼ばれ親しまれた汽車が存在していたのです。鉄道としては小型の汽車でしたが、物資を運ぶ重要な輸送機関として、また県民の足として沖縄の町や村を走っていました。

そこで、ゆいレール開通ということもあり、今回から5回にわたり沖縄の軽便鉄道について紹介したいと思います。第1回目は軽便鉄道の歴史の前半を紹介していきます。

沖縄で最初の鉄道敷設が計画されたのは、1894(明治27)年のことでした。本土の民間企業が「沖縄県鉄道株式会社」を組織し、那覇・首里・与那原を結ぶ鉄道の敷設が計画されました。しかし、日清戦争の勃発で物価が高騰し、また思うような資金集めが出来ず、結局は失敗に終わりました。これを見た県はやはり民間で鉄道を運営することは困難だと考え、県営で行わなければならないと考えたのです。そこで1911(明治44)年、県議で那覇―与那原間、国場―糸満間の県営鉄道敷設の陳情を取り入れ、以来2カ年に渡り県が鉄道に関する調査を実施しました。その調査の結果、1913(大正2)年1月に県会は鉄道を県営で行うことを決定し、政府に敷設免許の申請を行いました。その年の3月には政府から那覇―与那原間、国場―糸満間の敷設許可が下りました。そして翌1914(大正3)年1月、待望の那覇与那原間の敷設工事が開始されたのです。



▲ 那覇駅の構内 「図説・沖縄の鉄道」より

与那原は本島東海岸で唯一の港で、那覇で消費される山原からの薪炭類など太平洋地域の多くの物資が陸揚げされ、逆に太平洋岸地域への日用雑貨を運ぶとても重要な港でした。その物資の輸送力を向上させるため鉄道敷設が計画されたのです。敷設費用は全額県債で、県内だけでは資金調達が無理だったので、日本赤十字社に必要な資金を借りることになりました。10月末には全線が竣工し、試運転が行われ準備も整い、11月29日には県鉄道開業式典が盛大に挙行されました。那覇駅ではビヤホールや出店がならび、夜遅くまで賑わいをみせたようです。そして2日後の1914(大正3)年12月1日に、与那原線の営業が開始されました。こうして那覇駅(現在のバスターミナル)と与那原駅(現在のJA島尻東与那原支所付近)を結ぶ全長9.4キロ、建設費30万円余りをかけた沖縄初の鉄道が誕生したのです。

◎入館料免除・資料館外貸出の申請について

○申請する場合は、手続が必要です。

博物館では入館料の免除申請、資料の貸出申請を行うことができます。
申請書の手続はそれぞれ、「入館料免除申請書」、「資料館外貸出許可申請書」に記入のうえ、
入館・貸出を希望する日の**1週間前**までに申請してください。

■入館料の免除申請に該当する団体

- ①教育課程に基づく学習活動として入館する学生、生徒、児童及びこれらの引率者。
- ②宜野湾市教育委員会、博物館が開催する博物館資料に関する講演会、講習会、研修会等に参加して入館する者。
- ③その他館長が免除することが適当であると認めた者。

■主な貸出資料

○収蔵品 ○ビデオ ○写真



～ あなたの家に、眠っていませんか？ ～

博物館では、宜野湾市を中心としたさまざまな生活用品や、当時の暮らしが分かる道具・写真・映像などの収集に力を入れています。

随時、資料の収集を行っておりますので、「こんなのあるけど、どうかな？」と思っている方は、博物館までご連絡ください。すぐに職員がお伺い致します。

★ホームページ開設について

博物館では以前から開設しているホームページに加え、新たに7月から教育委員会のホームページを開設しております。両方見ていただけるとより一層、宜野湾市立博物館について理解できますので、ぜひご覧ください。

ホームページアドレス：<http://www.ginowan-okn.ed.jp/con7/index.html>

～ 市立博物館のロビーにて、証明書の交付を行っています ～

住民票と印鑑証明について、市立博物館のロビーに設置された交付の窓口にて申請を行えば発行されるという仕組みです。

★**注意事項** 1) 火・土・日、祝祭日、慰霊の日、年末年始は休みです。

※火曜日が祝祭日に当たった場合の翌水曜日も、くん蒸などの臨時休館日も、休みになります。

2) 午前9時～午後4時30分まで受付します。

平成15年度の事業あんない

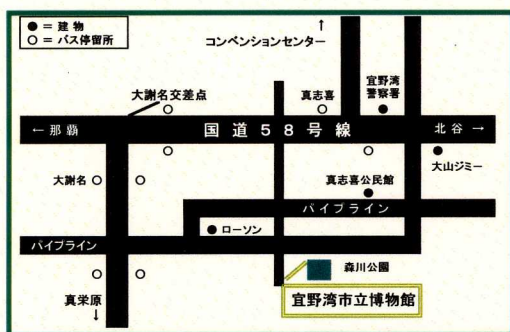
2003年4月~2004年3月

月	日	曜 日	内 容	期 間
8	9	土	特別展「宜野湾市の自然」	8月31日(日)まで
9	13	土	第3回 講習会「身近な野草を食べてみよう」 ○野草講師：島袋 暁(コザ高等学校校長) / 午前10時～午後2時	※募集期間 8月23日(土)～ 9月1日(月)
	27	土	第12回 市内小・中学生 文化財図画作品展	10月12日(日)まで
11	3(月)又は8(土)		第3回 見学会「宜野湾市の洞窟めぐりvol.3」 ○講師：新垣 義夫(普天満宮宮司・宜野湾市立博物館協議会会長)	※受付は終了しました 午後1時～5時
			第4回 新収蔵品展	
		土か日	第7回 講演会「伝統工芸と宜野湾市(仮名)」	午後2時～4時
2	下旬	土	企画展「宜野湾市の娯楽(仮名)」 ○期間内に、講演会・講習会などのイベント開催を予定しております	3月末まで

※ 日時や内容は未定のものもありますので、変更に関してはご了承ください。

◎ 詳しい日程や内容については、事業開催1ヶ月前にチラシや市報、新聞・雑誌の情報欄、はくぶつかんネットなどに掲載いたします。

◆宜野湾市立博物館の案内◆



△ 大型バスの駐車スペース有り

T 901-2224

沖縄県 宜野湾市 真志喜 1-25-1

TEL : 098 - 870 - 9317

FAX : 098 - 870 - 9316

ホムンギョウ : <http://www.homungyo.com>

city.ginowan.okinawa.jp/

home.nsf

◎ 開館日・時間

平日、土、日曜日の
午前9時～午後5時

※ 入館は午後4時30分まで

◎ 休館日

火曜日、祝祭日、慰霊の日（6月23日）、
年末年始（12月29日～1月3日）

※ その他、くん蒸による臨時休館日あり

※火曜日が祝日にあたる場合は翌水曜日は休館日となります。

◎ 常設展示室 觀覽料

	大 人	高校・大学生	小・中学生
個 人	200円	100円	50円
団 体	150円	50円	30円

※ 団体は20名以上から

